

巻 頭 言

紀要発行にあたって

仙台青葉学院短期大学学長
鈴木 一 樹

このたび本学研究紀要第10巻第1号を発行いたしましたので、皆様方のご高覧に処する次第です。

最近、大学に求められる役割が大きく変わってきています。元来、大学は一般社会とは一線を画し、自由に学びそして探究する場でした。直接的に社会で役に立つかどうかとは関わりなく、自分の好きな学問を好きなだけ研究できました。ところが今は社会との一体性ないし連続性が強く求められ、特に短期大学では職業に直結した実学教育に重点を置くのが一般的になっています。

この変化はいわば時代の要請ともいえ、それが正しいとか間違っているという問題ではありません。ただ、明確に言えることは、短大と専門学校との違いが曖昧になっているということです。それに加えて、2019年度から職業専門大学・短期大学が創設され、学校間の違いがますます分かりにくくなっています。

このような状況のもと、短期大学としてはより独自色を打ち出すべく実学教育のみならず教養教育、対人教育にも力を注ぎ、なおかつ研究機関としての役割を担っていくことが不可欠となります。

本学は、今年で開学10年目を迎え、2019年度からは現代英語学科も加わり計8学科となります。それにより、さらに広範な専門分野の研究成果を世に発信することができ、本学の独自色をより鮮明に打ち出すことができるものと自負しております。

紀要は大学教員の貴重な研究成果であり、大学にとって何物にも代えがたい知的財産であります。

今後、本学紀要が学術誌としてさらに充実したものとなることを期待し、私からのご挨拶とさせていただきます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。